

第2章 三笠市の概況

第1節 自然条件

1 位置及び面積

本市は、北海道の中央部、空知地方の南部に位置し、東経は141° 48' 07" から142° 09' 53" まで、北緯は43° 08' 25" から43° 21' 23" までの間にあり、東西29.7km、南北24.0km、周囲約98kmの総面積302.52km²となっている。

2 地勢

三方を山脈に囲まれた山岳丘陵の多い東高西低の地形となっており、西方はやや平坦な盆地で、その中央を貫流する幾春別川流域は豊かな農耕適地である。

幾春別岳より奔別境山の稜線をもって東は芦別市に接し、西は市来知川及び国道12号線を境として岩見沢市に、北は幾春別岳より奔別境山から三笠山を結ぶ山脈と川内川をもって美唄市と境を接している。

河川は、山脈からの溪流からなり奔別川、幌内川、市来知川が幾春別川に合流して石狩川に流れている。

3 気候

本市の気候は、日本海側の内陸性冷温帯気候区に属していて、温帯の北限かあるいは亜寒帯に属し、春季は平均気温が5度以上となり、初夏にかけて乾燥し、梅雨といっても空梅雨が多く、数年に一度梅雨現象が見られる位である。

夏季は温暖で、7月下旬から8月にかけて30度を超える日もあり、秋季に入ると気温も10度以下に下がり、北西の季節風は時雨を伴いながら吹くようになる。

冬季は湿潤寒冷で、気温も平均してマイナス3度以下になり、1月から2月頃にかけて最も積雪が多くなり、総降雪量は10mを超える場合もある。

第2節 災害の概況

本市の過去の災害発生記録から、風水害、火災、地震、雪害に大別でき、地形的に幾春別川の関連水域による水害が主である。

前節でみたように、本市は山岳丘陵が多く幾春別川と合流する奔別川、幌内川、市来知川は蛇行はなはだしく、また川床も浅いため上流に桂沢ダムが設置されているが集中豪雨及びその年の降雪量によっては融雪により、河川の氾濫、低地帯の浸水等が予想される。

1 四季別の災害の概況

(1) 春

冬期間の積雪が春先に連続する高温と、低気圧や前線による降雨や気温の上昇によって融解が進み、いわゆる融雪災害が発生する。

(2) 夏

北海道には、梅雨がないと言われる。しかし、梅雨前線が北上し、大雨に見舞われることがある。

また、暖かく湿った空気の流入で大気の状態が不安定になり、局地的に大雨が降り、水害が発生することがある。

(3) 秋

この時期は、低気圧と高気圧が日本付近を交互に通って、天気は周期的に変化しやすい。一方、台風の本盛期でもあるため、停滞する前線と台風の影響で豪雨災害をもたらす場合もある。

(4) 冬

冬季に入ると上空に強い寒気が流入する事により、低気圧が発達し大雪や暴風雪による交通障害等の災害が発生することがある。

また、平成8・13・24年と記録的な降雪となり、雪害対策本部を設置、平成8・24年には雪害による自衛隊の派遣要請を行っている。

2 過去における災害の主な記録

三笠市の災害記録は（資料編1）のとおりである。